

## 記事詳細

[記事一覧に戻る](#)

## 訓練生が業者と意見交換 (2015/10/08 4面)

心構えや魅力語り合う / 建協人材育成対策室



県建設業協会人材育成対策室は6日、鹿児島市の(株)コルテーヌで訓練生(求職者)と建設業者との意見交換会を実施。訓練生が建設業に就職する際に、建設業が求める人材や心構え、魅力などについて意見を交わした。

同日は、設計製図のCAD操作を学習している訓練生9人を対象に、(株)西郷組の西郷進平社長、(株)木落建設の木落孝作社長、(株)新和技術コンサルタントの上野竜哉専務、(株)鹿児島建設新聞の前原和彦報道部長がそれぞれ講話。

西郷社長は「土木は地球を形取る彫刻家。建設業もサービス業の一つと考え、地域に貢献し、喜ばれる仕事を心掛けている」と力説。木落社長は薬剤師から転職し、建築を志した自社の社員を引き合いに出し、「資格などは入社後に現場を経験しながら取得すればいい」と話した。

また、上野専務は「CADを通じて製図工等の業務もある。やる気があれば誰でも構わない」とコンサル・設計の魅力を訴え、前原部長は法制度の動向を織り交ぜながら「建設業は一人でも多くの人材を求めている。大変な面も多いが、建設業を好きになれば気にならない。一緒に働こう」と呼び掛けた。

質疑応答では、訓練生から給与面や休日をはじめ、「どのような人材が求められているのか」「資格の有無は就職に左右するのか」「履歴書のどこを見るのか」など質問。

さらに「建設業の悪い点は」とのするどい質問に対し、講師陣は「工程のずれや天候によって休日が不規則になる」など、一つ一つ丁寧に応じていた。

同対策室の岩本正参与は「初の試みであったが、一人でも多くの訓練生が建設業に就職してほしい」と話し、「今後も人材確保に向けて積極的に取り組んでいきたい」と述べた。

[更新:2015/10/08 No:685294]